

2010年6月期(第14期) 第2四半期決算説明会

株式会社 ディーバ
(証券コード3836 ヘラクレス)

2010年2月10日

DIVA®

- I. 2010年6月期 第2四半期決算概要
- II. コーポレートストーリーと中長期成長戦略

* 資料内の数値は表示単位未満を四捨五入で表示し、その数値より百分率を算出しております。

当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。当資料記載の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製または転送などを行われぬようお願いいたします。

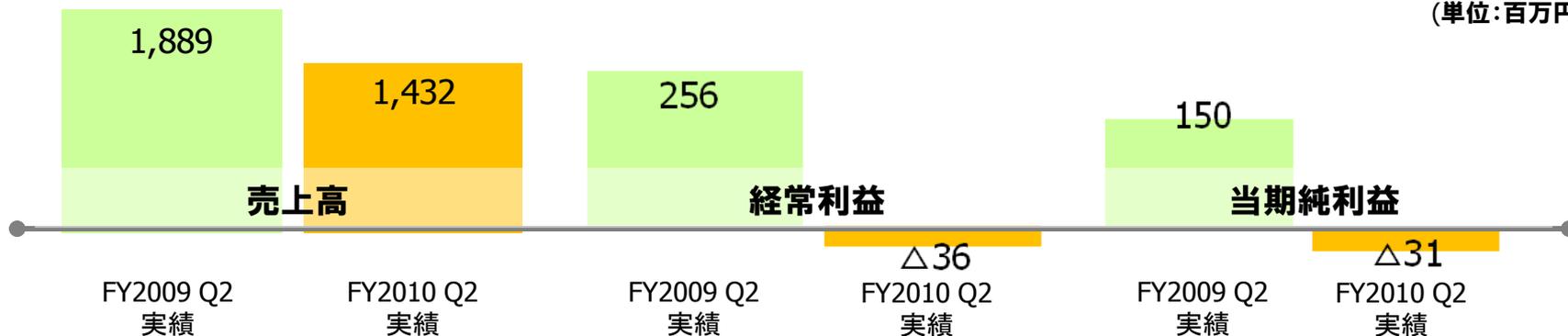
I. 2010年6月期 第2四半期決算概要

II. コーポレートストーリーと中長期成長戦略

2010年(平成22年)6月期 第2四半期決算概要

- 金融危機影響以前の前年同期比では、売上高24%減
- 市況悪化による企業の投資抑制、IFRS適用待ちの買い控えが影響
- 売上は第2四半期に回復傾向も、期首計画に対し7%未達
- FY2010 Q1:売上高617百万円、営業利益△54百万
- FY2010 Q2:売上高815百万円、営業利益 25百万

(単位:百万円)



(単位:百万円)	2009年6月期 第2四半期累計		2010年6月期 第2四半期累計		2010年6月期 第2四半期累計		前年同期比	計画比
	実績	(%)	計画	(%)	実績	(%)	増減(%)	増減(%)
売上高	1,889	(100.0)	1,540	(100.0)	1,432	(100.0)	△24.2	△7.0
売上原価	804	(42.6)	-	(-)	750	(52.4)	△6.7	-
売上総利益	1,085	(57.4)	-	(-)	682	(47.6)	△37.1	-
販管費及び一般管理費	827	(43.8)	-	(-)	711	(49.7)	△14.0	-
営業利益(損失)	258	(13.7)	25	(1.6)	△29	(-)	-	-
経常利益(損失)	256	(13.6)	20	(1.3)	△36	(-)	-	-
当期純利益(損失)	150	(8.0)	12	(0.8)	△31	(-)	-	-

※ 2009年11月に株式会社インターネットディスクロージャーの株式を取得したため、当第2四半期より連結決算を実施しておりますが、みなし取得日を当第2四半期末日としたため、当第2四半期の業績には当該子会社の業績は含まれておりません。従って、前期比較の数値について、前第2四半期個別業績の数値を使用しております。

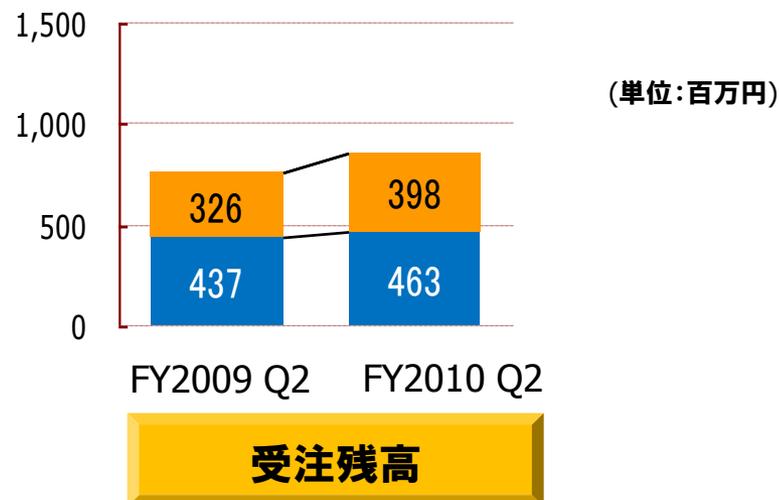
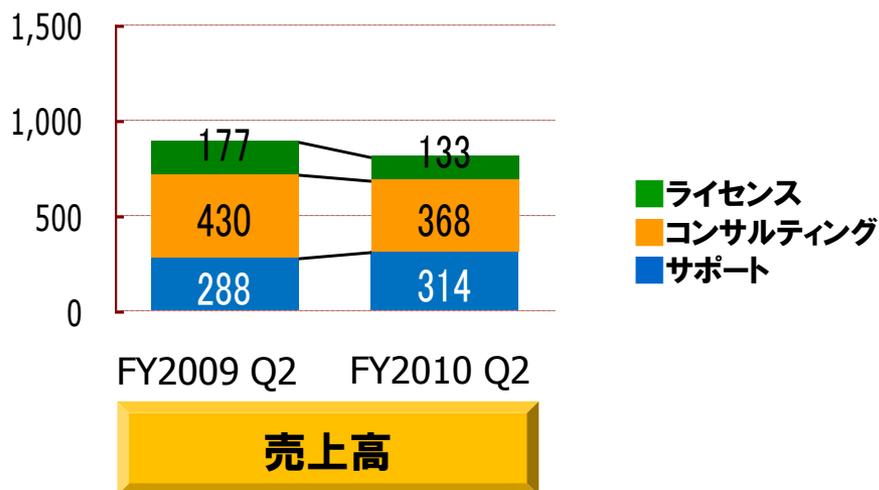
事業セグメント別 売上高・受注残高

□ 売上高

□ ライセンス、コンサルティングともに減、ストック型ビジネスのサポートは堅調

□ 受注残高

□ コンサルティング:398百万円（前年同期比22.1%増）



(単位:百万円)	2009年6月期 第2四半期	2010年6月期 第2四半期	前年同期比
ライセンス	177	133	△24.9%
コンサルティング	430	368	△14.4%
サポート	288	314	9.0%
合計	894	815	△8.8%

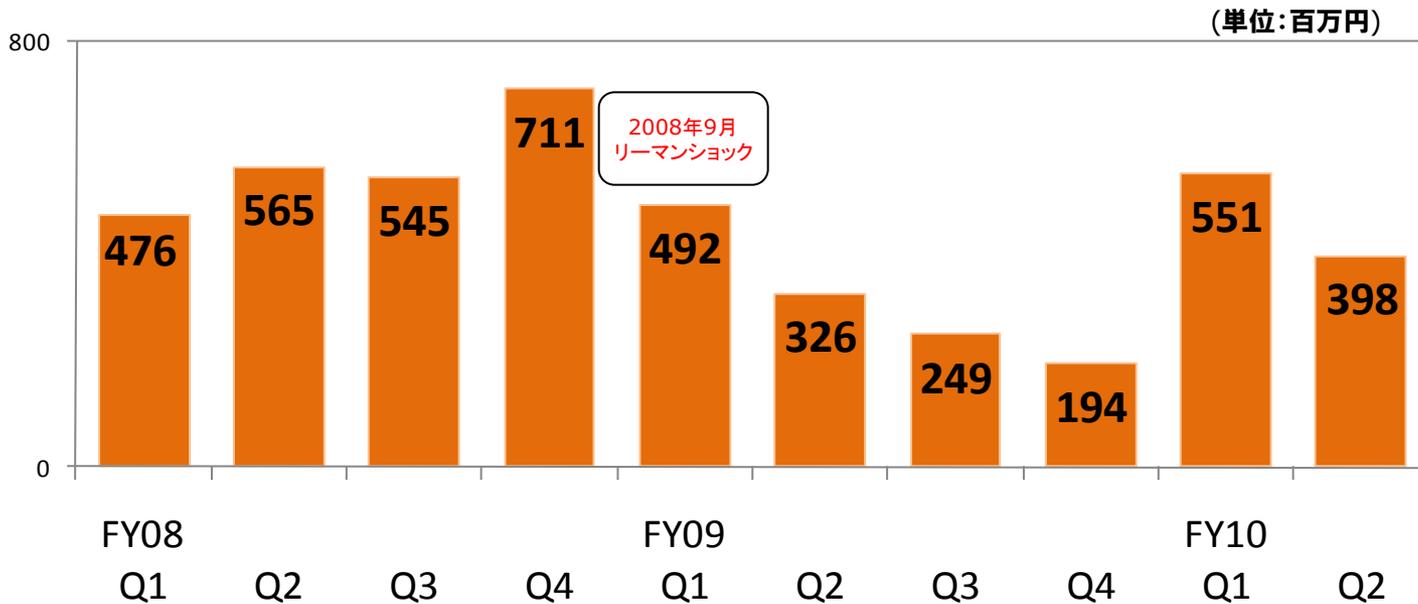
(単位:百万円)	2009年6月期 第2四半期累計	2010年6月期 第2四半期累計	前年同期比
ライセンス	-	-	-
コンサルティング	326	398	22.1%
サポート	437	463	5.9%
合計	763	861	12.8%

※2009年6月期第2四半期は個別業績です。

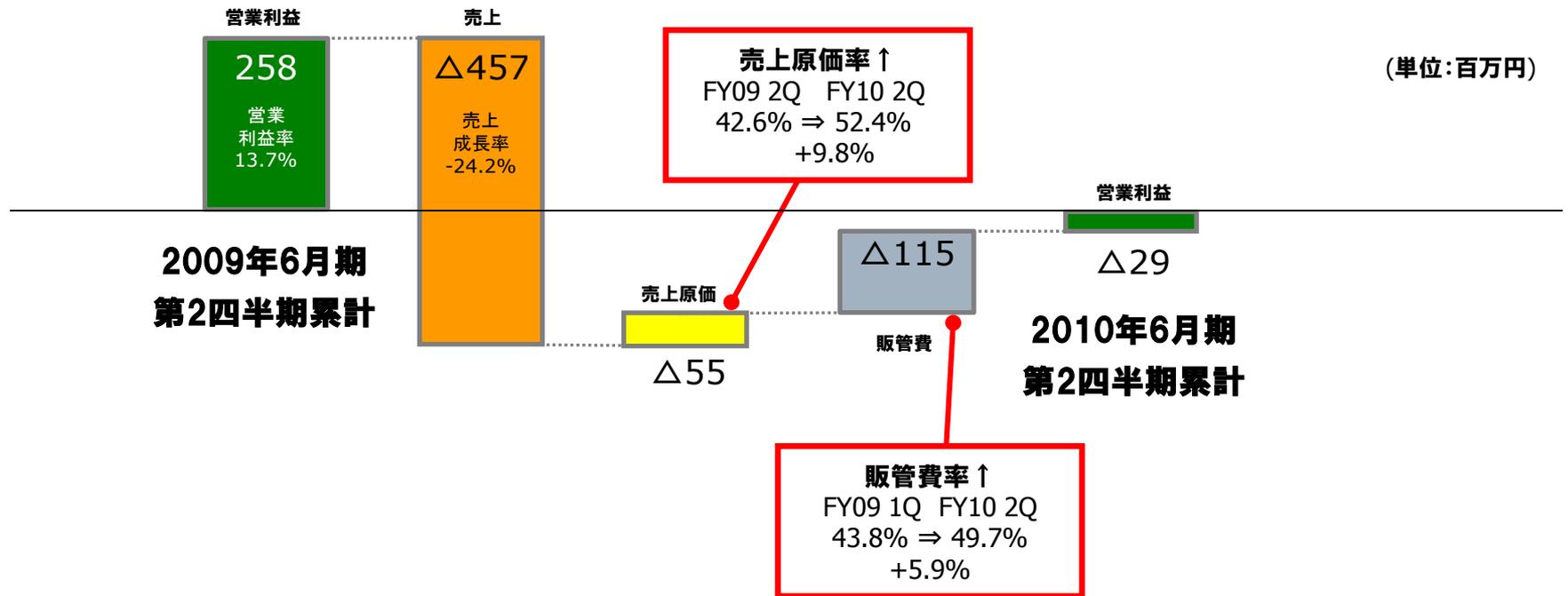
受注残高の推移

- 既存顧客への提案強化が奏功し、第1四半期に大幅回復
- 第2四半期は、前四半期比28%減も、4億円水準を維持

コンサルティングサービス受注残高の推移



営業利益の増減要因



2010年
6月期
第2四半期

- 売上原価率 ↑
 - 外注加工費を中心に売上原価は低下も、売上高減少により比率は約10%増
- 販管费率 ↑
 - コスト削減効果により販管費は低下も、売上高減少により比率は約6%増

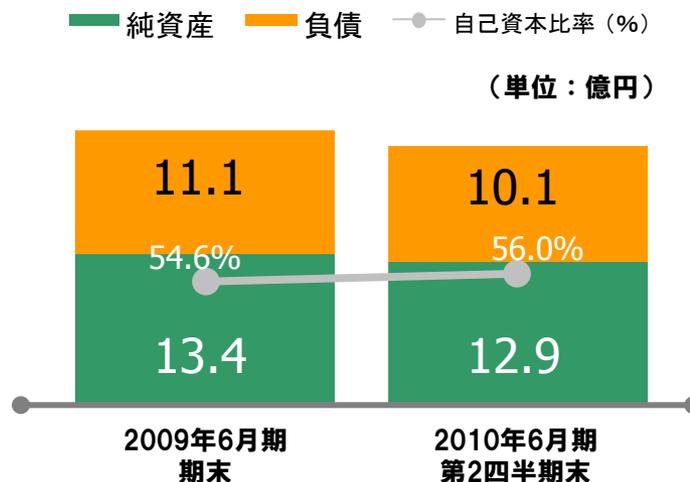
財務・キャッシュフローの状況

財務状況

2010年6月期 第2四半期末



純資産・負債・自己資本比率



キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2009年 6月期 第2四半期 累計 (参考値)	2009年 6月期 第2四半期 累計
営業CF	95	(172)
投資CF	(120)	(55)
財務CF	(74)	(62)
フリーCF	(25)	(227)

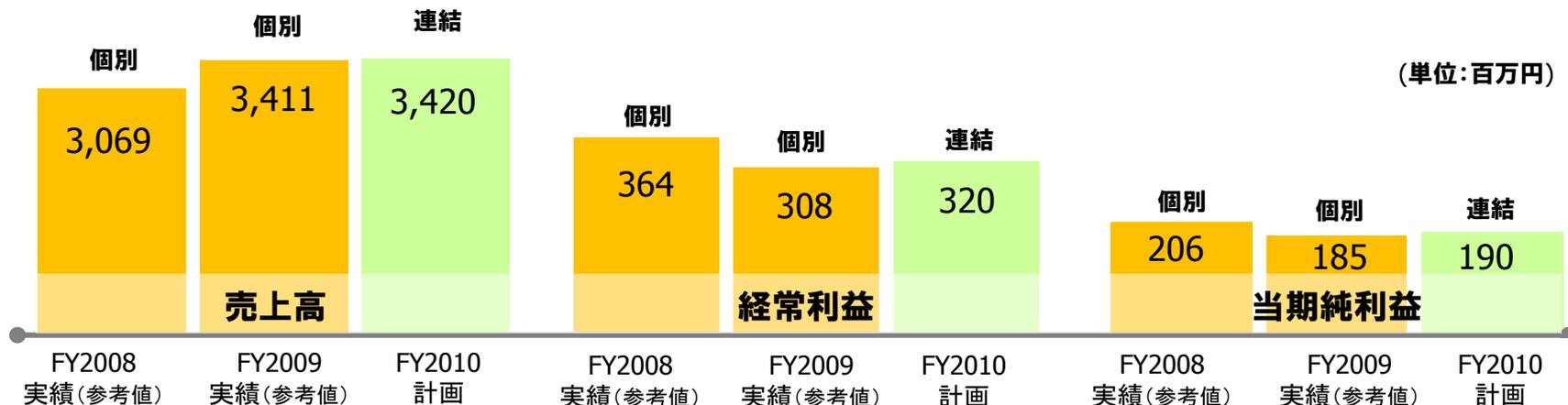
主な資金の増減要因

減価償却費	46 百万円
仕入債務の増加	11 百万円
税金等調整前四半期純損失	△ 36 百万円
売上債権の増加	△ 65 百万円
前受収益の減少	△ 57 百万円
無形固定資産の取得による支出	△ 44 百万円
新株発行による収入	12 百万円
ファイナンスリース債務の返済	△ 25 百万円
配当金支払	△ 24 百万円

2010年(平成22年)6月期 通期計画

- 連結売上高:34.2億円
- 連結経常利益:3.2億円

※ 2009年11月に株式会社インターネットディスクロージャーの株式を取得したため、
当第2四半期より連結決算を実施しております。
従って2008年6月期および2009年6月期の実績は個別業績の数値を参考値として掲載しております。



(単位:百万円)	2008年6月期		2009年6月期		2010年6月期		2010年6月期	
	個別・実績 (参考値)	(%)	個別・実績 (参考値)	(%)	連結・計画	(%)	個別・計画	(%)
売上高	3,069	(100.0)	3,411	(100.0)	3,420	(100.0)	3,300	(100.0)
売上原価	1,124	(36.6)	1,584	(45.4)	-	-	-	-
売上総利益	1,944	(63.4)	1,863	(54.6)	-	-	-	-
販管費及び一般管理費	1,575	(51.3)	1,544	(45.3)	-	-	-	-
営業利益	369	(12.0)	319	(9.4)	330	(9.6)	330	(10.0)
経常利益	364	(11.9)	308	(9.0)	320	(9.4)	320	(9.7)
当期純利益	206	(6.7)	185	(5.4)	190	(5.6)	190	(5.8)

上期のハイライト

- 新規市場における大型案件の減少
⇒金融危機以降の市況、IFRS適用を控えた買い控え
- 新規市場におけるライセンス単価の低下
⇒案件減少にともなう過当競争、価格競争激化
- 既存顧客を中心としたコンサルティング売上は堅調
⇒既存顧客への提案強化が受注残の増加として顕在化

下期の重点施策

- ライセンス売上向上
 - 商品競争力の強化
 - 新規大型案件の集中管理
- コンサルティングサービスの利益率改善

I. 2010年6月期 第2四半期決算概要

II. コーポレートストーリーと中長期成長戦略

ディーバのコーポレートストーリー

- **誰に何を提供？**：上場企業を中心に、企業情報開示のインフラを提供「企業情報開示ソリューション」を、上場企業を中心とした資金調達ニーズを有する世界中の会社に提供し、開示情報の社会インフラとして機能する。その後経営会計へと転じ、「経営情報の大衆化」を実現する。
- **何に注力？**：業務課題の具体的解決手段の普及
顧客の課題に対する具体的解決手段の提供と、その継続的成長発展を自社で責任を持って行い、それ以外の領域については他社との協業による普及を目指す。
- **どう実現？**：ノウハウの蓄積 x ITの活用
業務領域を連結経営、経営会計、開示経営に絞り込み、業務ノウハウを蓄積すると同時に、ITを活用し業務効率と情報活用効率を高め、プロフェッショナルサービスの生産性向上を実現する。

- ① **全世界で適用が進行する
国際標準の会計基準**
- ② **グローバル企業内での
会計方針統一を促進**
- ③ **連結会計中心の
会計基準**

提供ソリューションの拡大

連結会計を軸に業務領域を拡大 IFRS時代の企業情報開示ソリューションを提供

個別会計

連結会計

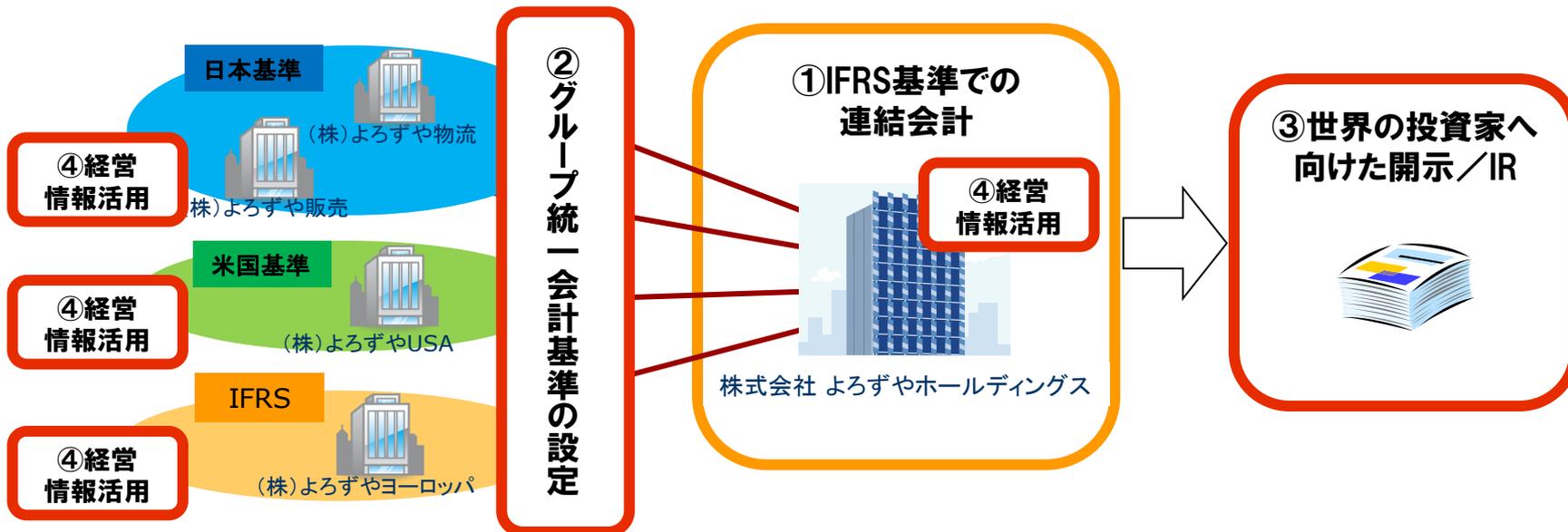
開示/IR

現状

現地の会計
基準での実施

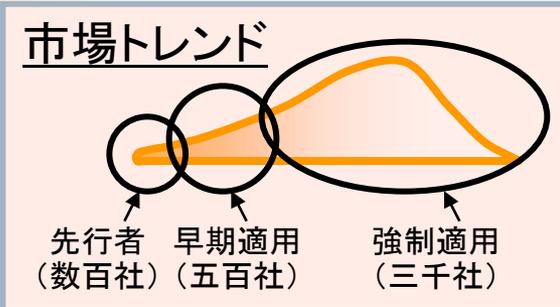
親会社のある日本
基準での実施

上場市場の
基準での報告



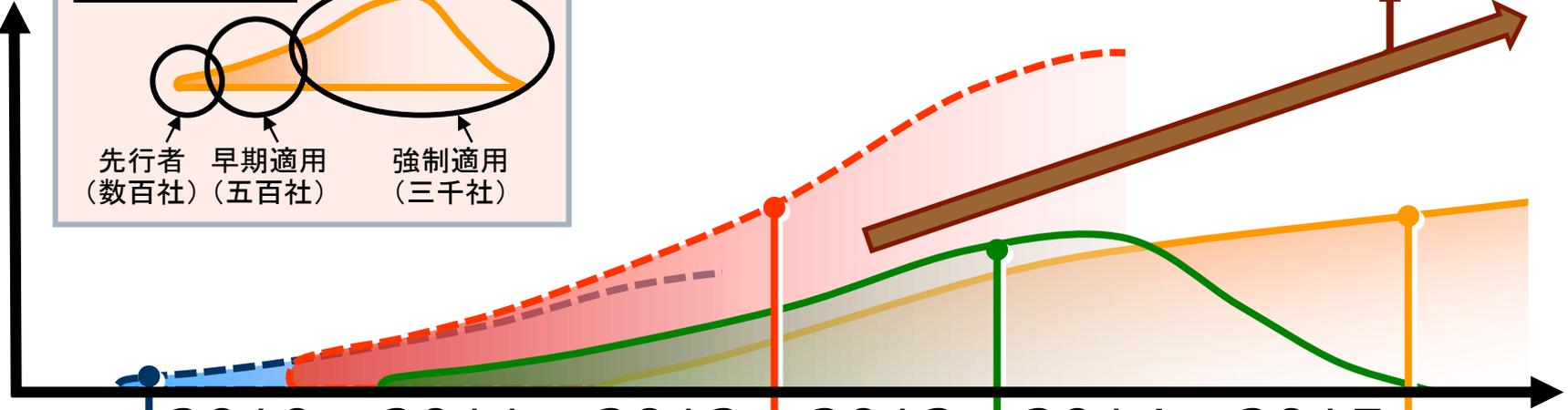
IFRS制度対応にともなう需要トレンド(イメージ)

制度対応が一巡後、
経営管理分野での
市場が拡大



関連市場イメージ

市場規模



2010 2011 2012 2013 2014 2015

△
・DIVA自社適用
・お客様との
共同プロジェクト

△
日本における
IFRS
強制適用判断

△
日本における
IFRS強制適用
(最短予測)

**IFRS
関連市場**

コンサルティング

**新会計システムの
要件定義・SI**

連結パッケージ導入

継続的制度対応

市場概要

- ・監査法人中心で展開
- ・IFRSでの社内会計方針策定コンサル

- ・SIベンダー中心で展開
- ・新会計システムの実要件定義・SI

- ・新会計システム向け連結会計ソリューションの導入

- ・制度改正への対応
- ・お客様への業務支援

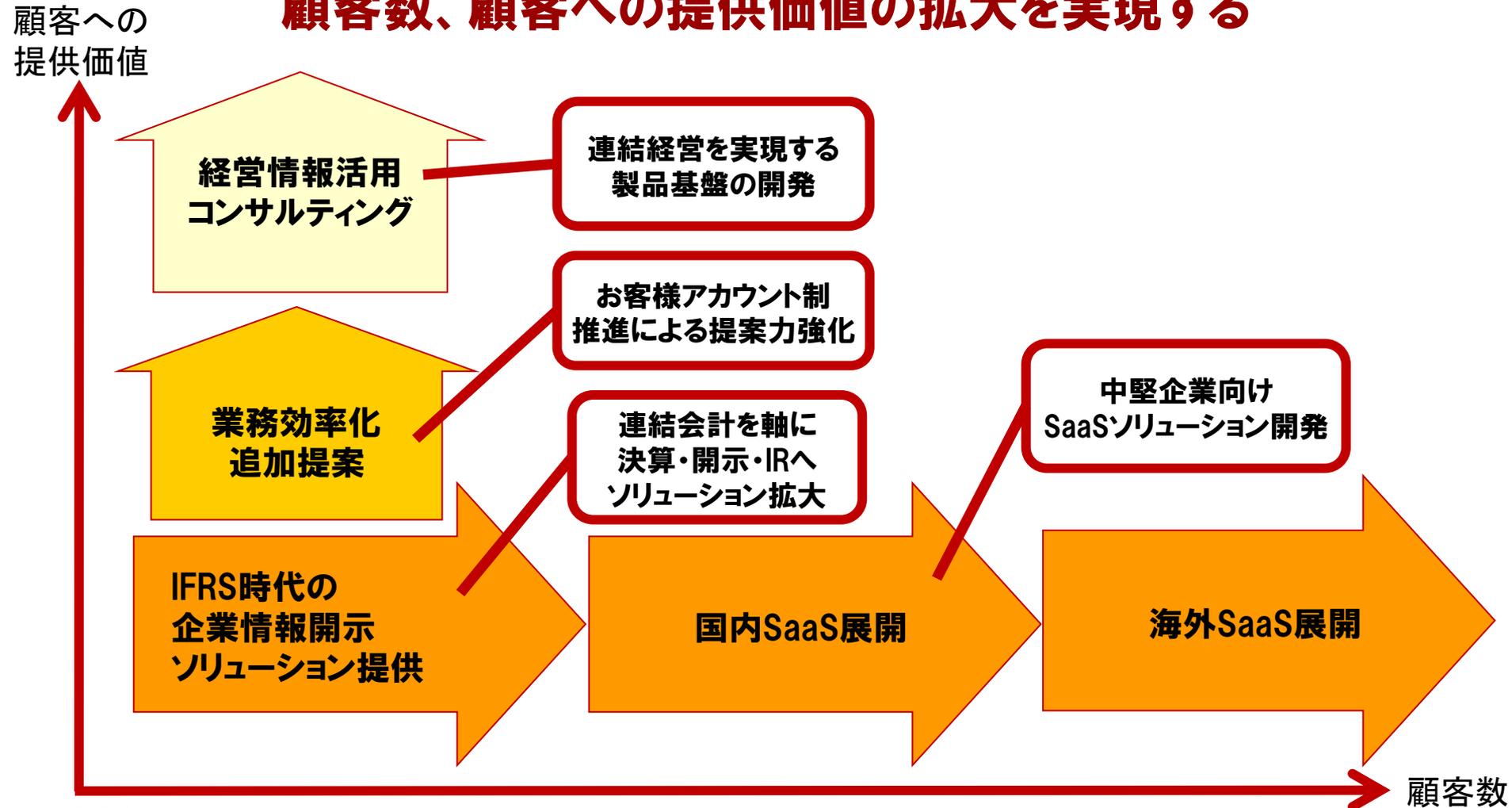
パートナー中心

DIVA社のメイン市場



事業成長のモデル

商財・顧客リレーションを強化し
顧客数、顧客への提供価値の拡大を実現する



成長のシナリオ 国内市場

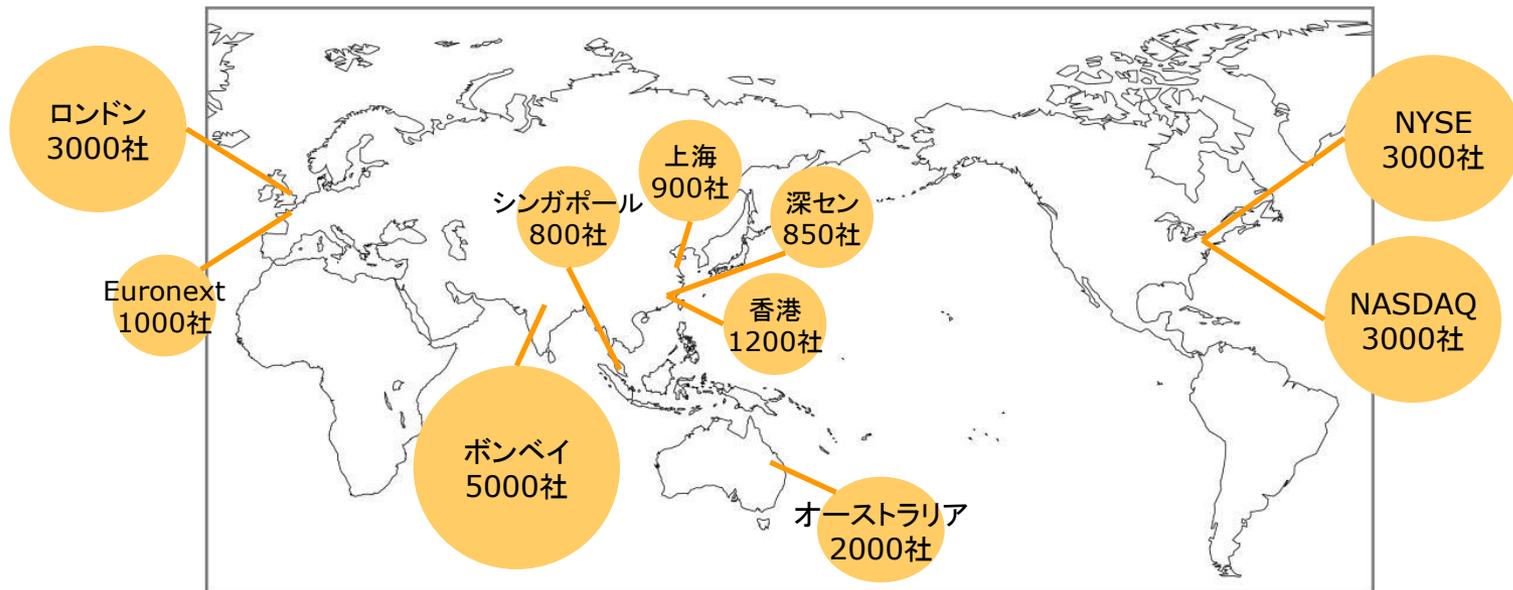
- 約600社の既存のお客様（上場企業 約7割）
経団連IFRS準備組織の参加企業21社の半数以上がお客様
- 全上場企業
IFRSによる開示が必須となる見込
- 未上場企業
資金調達（社債・融資等）に、上場企業並みの情報開示が必要に

拡大するディーバの顧客層



IFRSの世界標準化により、ディーバの市場が世界へ広がる

世界の主要取引所の上場企業数



外貨を稼ぐ企業となる！

IFRS時代の企業経営情報インフラを提供

日本でのIFRS適用は目前、
上場企業を中心とする制度対応需要の獲得

提供ソリューション領域を拡大、
IFRSの世界標準化を契機に海外市場へ展開

DIVA®

参考資料

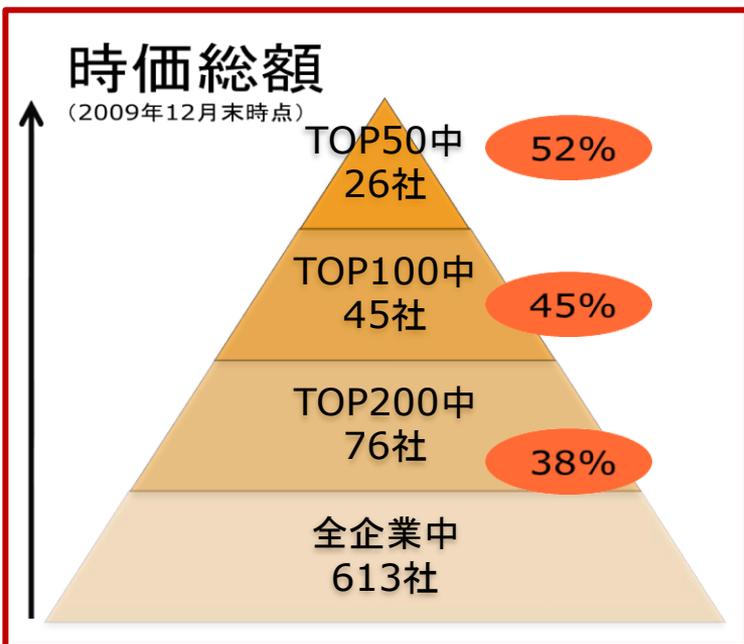
企業概要

社名	株式会社ディーバ (銘柄コード:3836 大証ヘラクレス 2007年2月上場)		
設立	1997年5月26日		
メンバー	232名(連結ベース:2009年12月末)		
資本金	2億8,640万円		
所在地	東京本社、大阪オフィス、名古屋オフィス		
関係会社	株式会社インターネットディスクロージャー DIVA AMERICA (ともに100%子会社)		
決算概要	2009年6月期	売上高:	34.11億円
		経常利益:	3.08億円

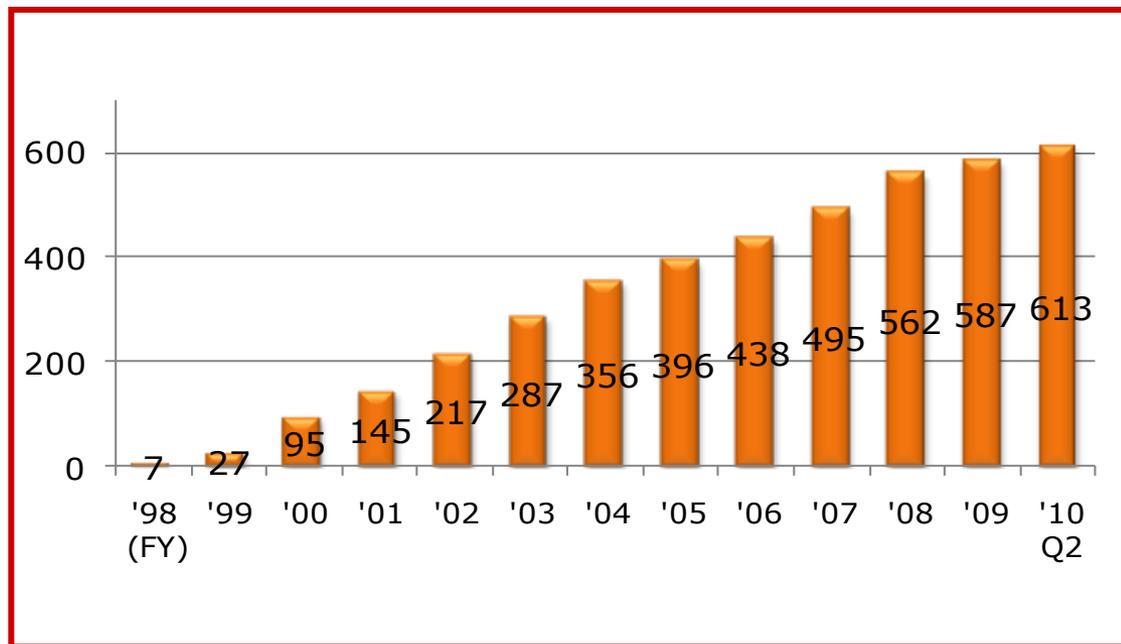
3つの収益モデルで継続的成長を実現



600社を超える、日本を代表する企業グループがお客様 (連結子会社数:約24,000社)



お客様の構成



ご利用中のお客様数

<IR関連お問合せ先>

電話：03-5480-7600

Email：IR@diva.co.jp

担当：遠藤、守田